



「音楽が聴こえる」



文章から音色を想像することは、耳で音を感じる以上に心が震えます。今回は音楽をテーマにした小説や全編を通して静かに音楽が流れます。読書をしながらかメロディがあふれてくるなんてとても贅沢な気をもったり癒やされたり、CDを流して静かな時間を過ごしてください(原真由美)



森絵都『アーモンド入りチョコレートのワルツ』角川文庫 2005

絹子先生のピアノ教室は、歌っても踊っても構わない自由で愉快で魅力的。ワルツの調べに誘われた君絵、奈緒、フランス人のおじさんの物語。「サティの音楽はきれいだよ」先生にとって最愛の人であるサティは、子どものための楽しい曲をたくさん作った人。三拍子は楽しかったこと、大好きだった人たちを覚えていなさいと軽やかに歌います。

大島真須美『ピエタ』ポプラ社 2011

ヴィヴァルディは、かつてヴェネツィアに存在した孤児を養育するピエタ慈善院で音楽の才能に秀でた〈合奏・合唱の娘たち〉を指導していました。ある日、教え子のエミーリアのもとに、恩師の訃報が届き……。失われた一枚の楽譜の行方を巡り女性達の嫉妬や友情が描かれます。「よりよく生きよ、むすめたち」と祈りが込められた曲が中庭で演奏されると、空から光が降ってくるようです。



松家仁之『火山のふもとで』新潮社 2012

フランク・ロイド・ライトの弟子だった建築家、村井俊輔に憧れて青山の設計事務所に入ったばかり。「国立現代図書館」の設計コンペを控えて、浅間山にある「夏の家」に事務所の仲間達と共同生活を始めます。コンペに向けた闘い、密やかな恋が静かに深く展開されます。背景にバッハのプレリュード、マーラーの交響曲、そして麻里子の弾くシューベルトのピアノソナタが低く流れます。



〈色々な音色を楽しんで〉

佐藤多佳子『第二音楽室』 楽学校×音楽室

宮下奈都『羊と鋼の森』文藝春秋 2015 楽ピアノ×調律師

五十嵐佳子『あの日のオルガン』朝日文庫 2019 楽戦争×オルガン
DVD「戦場のピアニスト」東芝 2002

〈賑やかに！ 吹奏楽〉

津原泰水『ブラバン』バジリコ 2006

中沢けい『楽隊のうさぎ』新潮文庫 2007

瀬川深『チューバはうたう』筑摩書房 2008

